

福井大学学術交流協定校への派遣留学(交換留学)月例報告書 (5月分)

留学先大学: Chulalongkorn University

氏名: 井口 健

<はじめに>

いよいよ最後の月例報告書になってしまいました。この10ヶ月を振り返ると辛かったことももちろんありましたが、それ以上に多くの人に支えられた温かい思い出が蘇ってきます。今月の前半はファイナルでバタバタしており、後半は一人でも多くのお世話になった友達に会えるように全力を注ぎました。

<ファイナル>

ファイナルではリサーチ課題とテストが一つずつ出されました。Food and Cultureの授業では具体的な料理や食材を一つ決めてそれについてのリサーチをしてレポートにまとめるのが課題でした。私は授業でも扱った寿司をテーマにJapanese Sushiがどのようにタイで発展していったのかをテーマに調査を進めました。調査では実際にタイの寿司レストランを訪れて実食やインタビューもする必要がありました。タイ人オーナーが経営しているお店を3つと日本人オーナーのお店を1つに行き、インタビューに協力して頂きました。お店によっては混んでいない時間を狙ってアポなしで伺ったところもあるのですが、快くインタビューを受けてくれてとても感激しました。また、この調査で通訳として手伝ってくれた友達にも感謝しかありません。一人で4000ワード近くのレポートを書くのは初めての経験だったのですが、タイでお寿司を食べたりインタビューでオーナーの方々と話せたりしたので振り返ってみると楽しい場面も多かったように思います。けどやっぱり辛かったです。

Organic Gardeningのファイナルは4択問題120問のテストでした。テストのアナウンスをされた時、授業も真面目に受けているし4択問題だから大丈夫だろうと思ってしまったのが今月の大失敗でした。もちろん復習もして対策は行いましたが、予想以上に細かいところまで問われたり、実生活に何の役にも立たないから出ないだろうと思っていた人名の問題もしっかり出題されたため出来はあまり良くないと思います。しかし授業内容自体は自分の興味のあることで、新しい知識も色々と学ぶことができたのでこの授業を履修したことに後悔はありません。

<日本人学生会のイベント>

今まで1、2回しか参加したことがなかったのですが、今月のイベントはみんなまでタイ留学について振り返るといふものだったので参加を決めました。自分の留学中の気持ちの変化を線グラフで表したり題名をつけたりなどして、最後は一人2分の持ち時間でそれぞれの留学生活についてプレゼンをしました。自分の留学生活の総括をするだけでなく、他の学生がどのような生活を送りどのようなことを感じてきたのかを聞く貴重な経験となりました。参加者一人一人の留学生活に大きな価値があり、そこに上も下も優劣ありません。同じ国で同じ環境にしながら、全く違う経験をしてきた学生と経験を共有することは刺激的であるとともに、この留学が大学生活においてどれだけ大切なものになったかを実感する機会でもありました。



留学中に日本人の友達を持ちすぎるとよろしくないというのは私の経験からの意見ですが、タイ日本人学生会は毎月キャリアやボランティアなど違ったテーマでイベントを開いているので、自分の興味のあるものがあつたら積極的に参加するべきだと思います。

<おわりに>

私は留学の前期は本当に後悔の残る過ごし方をしてしまい、自分の留学生活に自信を持つことができませんでした。そこで後期は単位変換を気にせず興味のある分野の授業をとり、クラスの外では友達を作ることに力を注ぎました。振り返ってみると、もちろん授業も自分の留学を充実させてくれた大切な要因だったのですが、やはり私にとっては友達の存在が一番大きかったように思います。最後の方は色々な友達が最後だから会おうと言ってくれて毎日予定が詰まっていることをとても幸せに感じました。おかげで同じ映画を2回観たりもしましたがそれもいい思い出です。笑 国籍も文化も言語も異なる自分を優しく受け入れてくれた友人たちには本当に感謝しかありません。この微笑みの国タイで受けた優しさを少しずつ日本でも返していくことが今後の目標の一つです。そして私の留学生活も10ヶ月かけてようやく自信を持てるものになりました。10ヶ月間支えてくれて家族、国際地域学部の友人たち、国際課の職員の方々にも本当にお世話になりました。ありがとうございました。

